

セカンドオピニオンについて

○セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンは、英語で「第2の意見」あるいは「別の（他の）意見」という意味の言葉です。患者さんが納得してご自身の診療（検査・診断・治療）の選択・決断ができるように、検査結果や治療法、いままでの治療の効果、これから先の治療法や療養についてなど担当医から聞いている説明や意見とは別に、他の医療機関の医師に意見を求めることです。担当医をかえたい、病院をかえたいというお気持ちで利用するしくみではありません。あくまでも、「別の医師から意見を聞くこと」がセカンドオピニオンです。

担当医からの説明に疑問を感じる、あるいは納得できないということはしばしばあると思います。「本当にがんなの？」「他の治療法はないの？」「どうして治療を変更しなければならないの？」などの疑問や不安があるときに、別の医師がどのように考え、判断するかを知ることで、あなたの決断を支援することを目的に整備されたしくみなのです。



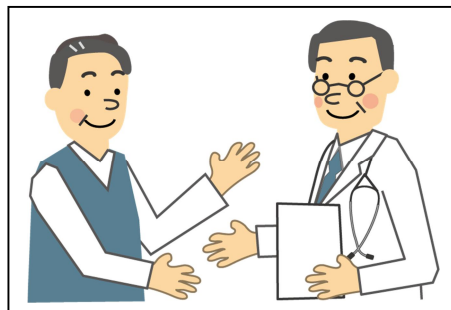
○セカンドオピニオンを受けてみたいと思われた方は

最初に担当医の説明をよく聞いて、疑問や不安についてもう一度率直に担当医に聞いてみてください。率直な会話を通して、あなたが納得できる決断ができたのならセカンドオピニオンは必要ありません。また、がんなどの治療に関する決断は、あなたにとって大きなものであると同時に、ご家族にとっても大きなものです。あなたを支えてくれるご家族が、セカンドオピニオンを受けてみたいというお気持ちがあるかもしれません。ご家族がセカンドオピニオンを受けてみたいと思われている場合も同様に、担当医の説明をあなたといっしょに良く聞いてもらうことから始めてください。

○セカンドオピニオンのタイミングはいつがいいの？

診療においては、担当医からの説明を聞く機会があります。セカンドオピニオンは、担当医の説明に疑問がのこる、納得がいかない、本当にそれでいいのか不安に感じるといときには申し出ましょう。

セカンドオピニオンを希望する場合には気兼ねや遠慮はいりません。担当医にその旨を教えてください。担当医は、紹介状（診療情報提供書）、採血検査データ、レントゲンやCT、MRIなどの画像データを準備します。セカンドオピニオンを求められた医師は、それらの情報からあなたの病状を判断し、最適と思われる治療法などについての意見を示してくれます。



○セカンドオピニオンはどこで受ければいいのか？

「セカンドオピニオン外来」に対応している病院の相談窓口等に問い合わせて、確認して下さい。「いばらき医療機能情報ネット」でも検索することができます。

受診する医療機関が決まりましたら、その医療機関に連絡して予約をとります。セカンドオピニオンは、診察ではなく専門的な相談ですので、自費での受診となり費用も病院ごとに違います。料金についても事前に確認しましょう。

受診前には、担当医からの説明を振り返ってまとめておきます。そして、質問したいことを書き出しておきましょう。また、受診には頼りにしている信頼できる方に同行していただくとよいでしょう。

○セカンドオピニオン受診後は

セカンドオピニオンを聞いてあなた自身の考えは変わりましたか？セカンドオピニオン後のあなたの考えを、率直に担当医に伝えましょう。また、セカンドオピニオンに対する担当医の考えも聞くことで、あなたの病状や治療法の理解はさらに深まります。その上で納得のいくあなたらしい決断をしてください。

セカンドオピニオンを受けた病院で治療を受けることにした場合には、担当医から改めて検査結果や治療経過についての情報を紹介状としてまとめてもらい、治療する病院の医師へバトンタッチしてもらいます。

セカンドオピニオンは、あなたをサポートする有用なしくみです。回数の制限もありません。経過の節目ごとに、あなたの担当医の説明をよく聞いて、質問し、話し合い理解することが第一に大切なことです。その上でこのしくみを上手に利用していきましょう。